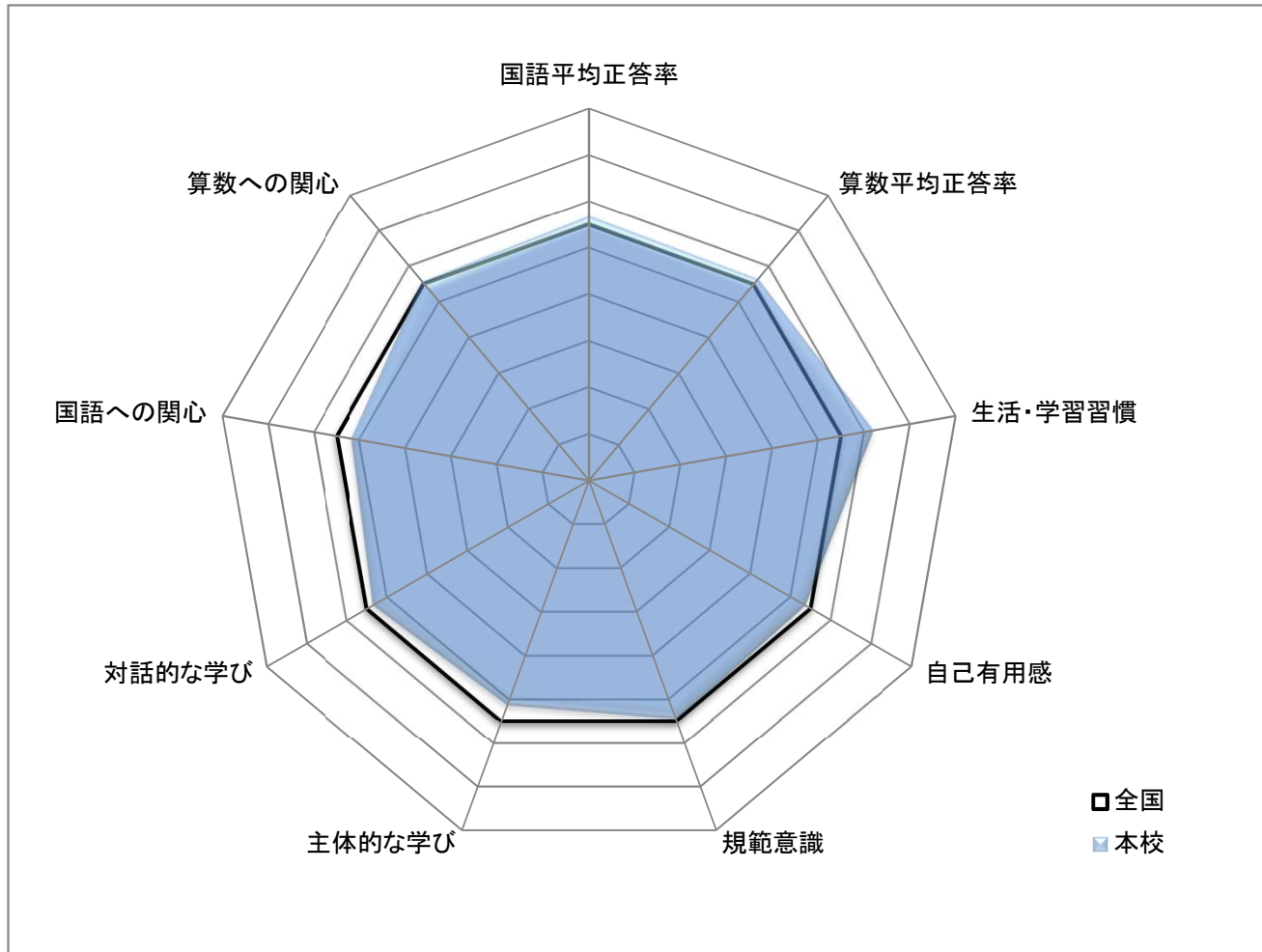


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語、算数の平均正答率は、全国平均正答率をやや上回っている。
- ・国語は、「書くこと」の領域が全国平均正答率より上回っている。一方で、「読むこと」が他の領域より低い傾向にある。
- ・算数は、「図形」の領域が全国平均正答率より約10%上回っている。一方で、「数と計算」の領域は、全国平均正答率より下回っている。
- ・国語、算数ともに記述式の正答率は全国平均と同程度である。

《授業改善のポイント》

【国語】

- ・主体的で対話的な深い学びとなるよう、児童自ら考え、深めていくような授業展開を重視し、思考力、表現力を育てていく。
- ・叙述を基に、理由を明確にして自分の考えをもつよう指導する。
- ・読書科での本の選び方について指導方法を改善し読解力を高める本を読ませせていく。
- ・児童の関心・意欲を引き出すような導入を工夫して行う。

【算数】

- ・立式の根拠を、図や数直線などを活用して自分の考え方を説明する機会を増やすなど、言語活動の充実を図り、算数の思考力、表現力を高めていく。
- ・「数と計算」の補習プリントを用意し、朝学習や補習教室等で取り組む。

《チャートの特徴》

- ・国語、算数の平均正答率は、全国平均を少し上回っている。
- ・規範意識や自己有用感は、全国平均と同程度である。
- ・生活・学習習慣は、全国平均を上回っている。
- ・主体的な学び（課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組むこと）や対話的な学び（話し合い・学級活動）は、全国平均をやや下回っている。
- ・国語への関心は全国平均を少し下回っているが、算数への関心は全国平均と同程度である。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・授業で学習したことを家庭や地域で活用したり関連付けたりすることで主体的に学ぶ児童を育成する。
- ・学習用タブレット端末を活用して家庭学習や復習等に取り組ませて学力の定着を図る。
- ・ホームページや学校便り等で、全国学力・学習状況調査の結果を公表し、家庭学習の習慣が引き続き定着するよう協力を促していく。